



神奈川県

KANAGAWA

かながわ つばさプロジェクト

子ども・若者たちの社会への巣立ちを応援します



このプロジェクトは、法人・団体・個人の皆様からの協力のもとに実施しています。

かながわ つばさ プロジェクト



生まれ育った環境によって、夢や希望を諦めざるをえない。
進学や社会生活が上手くいかず、再チャレンジができない。

課題を抱える若者たちの中には、進学や就職、新生活の準備など、社会への巣立ちに強い意欲や絶え間ない努力があっても、本人を取り巻く環境により十分な支援を受けることができず、選択が制限されている現状にあります。

このプロジェクトでは、困難な課題に向き合いながらも自らの夢や希望を叶えようとする若者たちの未来を社会全体で応援することを目的としています。

事業概要及び支援対象

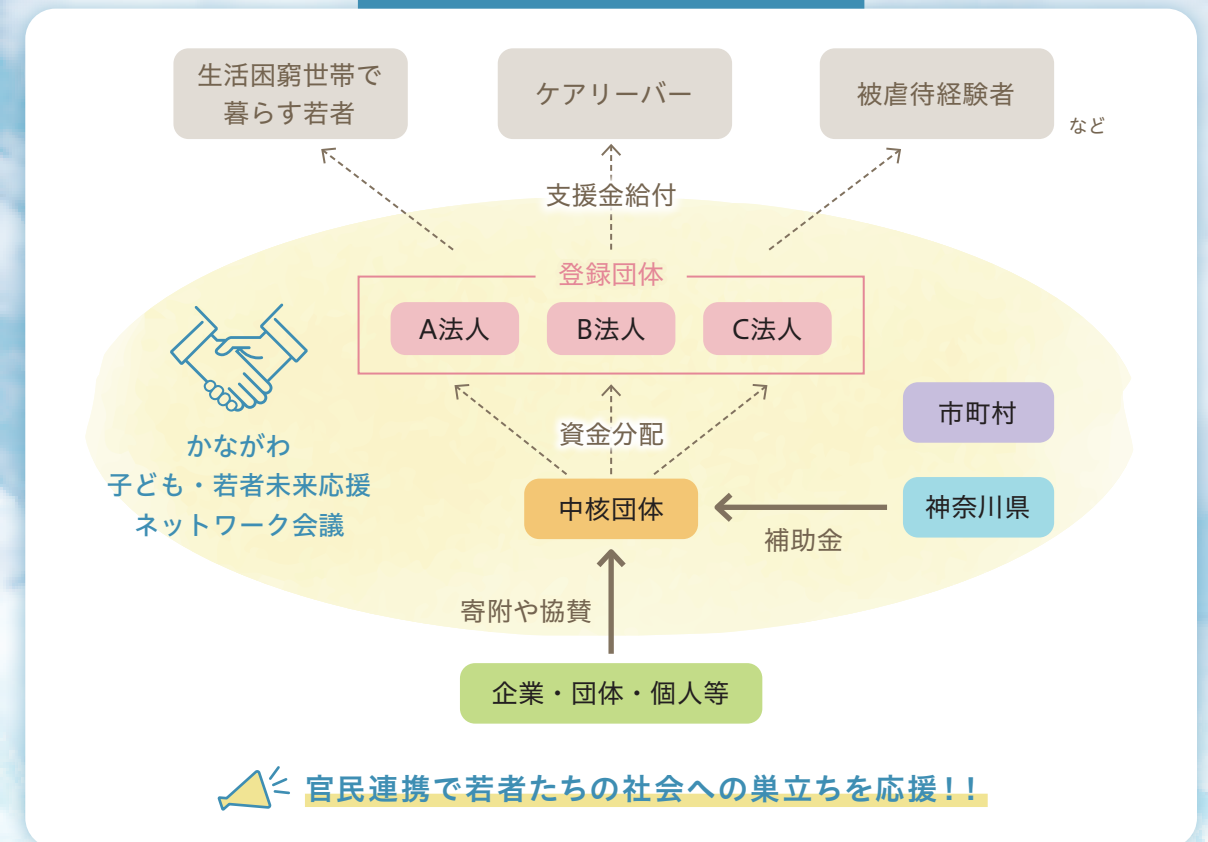
困難に向き合う子ども・若者の社会への巣立ちを応援するため、NPO等を通じて、進学・就職などの費用の一部を支給しています。

大学等の受験費用	ひとり暮らしの費用	就職活動の費用
35,000円(上限)	25,000円(上限)	40,000円(上限)

対象者

- 39才以下（当該年度4月1日現在の年齢）
- 神奈川県内に在住する者 又は 当該年度に県内への進学・就職を目指す者
- 以下のいずれかに当てはまること
 - ア…生活困窮世帯
 - イ…ケアリーバー（児童養護施設等を退所した・する予定の者）
 - ウ…被虐待経験者
 - エ…不登校・ひきこもり
 - オ…ヤングケアラー
 - カ…その他、進学・就職・居住に関して困難を抱える者
- 当該年度にかながわつばさプロジェクト登録団体による支援を利用中の者

プロジェクトのイメージ図



登録団体・中核団体（令和4～5年度）

これまでに「かながわつばさプロジェクト」に参画した支援団体の一覧です。（五十音順）

団 体 名	主な活動内容	主な活動地域
一般社団法人 アマヤドリ	相談支援、居住支援	横須賀
認定NPO法人 アンガージュマン・よこすか	学習支援	横須賀
公益財団法人 神奈川ゆめ社会福祉財団	生活支援	県全域
中核団体 認定NPO法人 神奈川子ども未来ファンド	子ども支援、中間支援	県全域
NPO法人 子どもと生活文化協会 (CLCA)	不登校・ひきこもり支援	県西地域
NPO法人 こどもの夢サポートセンター	不登校・ひきこもり支援	横須賀
認定NPO法人 さくらんぼ	居住支援	横浜
一般社団法人 てとてと	学習支援	相模原
NPO法人 ナレッジ・リンク	就労支援	相模原
(福) 白十字会林間学校 あすなろサポートステーション	ケアリーバー支援	県所管域※・相模原市
NPO法人 ひまわり	ひとり親家庭・子ども若者支援	県全域
認定NPO法人 フリースペースたまりば	不登校・ひきこもり支援	川崎
認定NPO法人 ブリッジフォースマイル	ケアリーバー支援	県全域
NPO法人 文化学習協同ネットワーク	学習支援	相模原
公益財団法人 よこはまユース	青少年育成、生活支援	横浜
NPO法人 リロード	学習支援	横浜

※県所管域は、横浜市、川崎市、相模原市及び横須賀市を除いた市町村

支援実績（令和4年度）

支援者数 延べ **195**人 実数 **152**人 支援総額 **557**万**8**千円

- ① 大学・専門学校等の受験費用 29人
- ② 住居設定に要する初期費用 71人
- ③ 就職活動に要する費用 95人

かながわつばさプロジェクトの活用ケース

（登録団体へのヒアリング）

生 活困窮世帯で暮らす高校3年生で、進学を希望して勉強を頑張っていました。遠方への受験に係る交通費や受験料に苦慮していました。当プロジェクトを活用して専門学校を受験し、合格することができました。

家 庭の虐待により施設の一時保護を利用していた高校生で、家庭からの支援は困難なため、新生活での自立にあたって資金面に課題がありました。かながわつばさプロジェクトを活用できたことで、無事に自立し、本人もとても助かったと感謝しています。

ヤ ングケアラーの状態にある高校生で、本人は勤勉で、大学を受験できる力がありましたが資金面が課題でした。当プロジェクトのおかげで、受験に係る交通費を確保できたため、受験して、無事に合格し、4月から元気に大学に通っています。

シ ングルマザーの方で、就職活動に当プロジェクトを活用しました。ご自宅は交通が不便な場所にあり、お子さんを保育園に預けて職場に向かうための自転車を購入されました。移動手段を確保できたこともあり、正式雇用となって働かれています。

高 校からひきこもり状態にあった若者で、就労のため、作業着購入及び交通費に当プロジェクトを活用しました。人とのコミュニケーションは苦手ですが、元気に出動されています。

利用者の声

\\ 温かなご支援ありがとうございました！ //

支 援のおかげで、経済的な心配もなく存分に受験に取り組むことができました。無事に合格することができたので、4月からの大学生活が楽しみです。いつか、今度は僕が誰かを支えていきたいです。

支 援ありがとうございました。自分の夢であるスポーツトレーナーになる為に2年間専門学校で一生懸命勉強に励みたいと思います。

皆 様の厚意でご支援いただけたことに感謝の気持ちでいます。コロナ禍を経て経済状況が苦境に陥った状況で就職活動をしていた辛さが和らぎ、これからの就業に希望を持てる心になったというのが素直な感想です。

つ らいもありますが、新しい靴や靴を使い仕事を頑張ろうという気持ちになりました。

費 用面で受験できる学校が限られてしまうため、本支援金により、もう1校受験することが出来ました。それもあって、納得した受験になりました。しっかり学業とアルバイトを両立させていきます。

一 支援ありがとうございました。調理系の仕事に進むため、気持ちを込めて美味しい料理を作ることのできる料理人になれるよう、頑張ります。

就 職の面接の時にスーツが必要になり、お金がなくて困っていました。支援金のお陰で購入できました。スーツ購入は初めての経験でよくわからず店員さんにすべてお任せにしました。良い経験となりました。これからも頑張ります。ありがとうございました。

受 験の交通費や新居の費用に充てることができました。4月からの大学生活の中で多くの事にチャレンジし、たくさんの経験を積みながら将来の夢に向かって頑張っていきます。

支 援金を就職する際の、衣服や備品の費用として利用させて頂きました。新しく仕事を始めるにもお金がかかるのでとても助かりました。今は新しい仕事に就き、今後は安定した収入が得られそうです。ご支援頂いたお陰です。ありがとうございました。

新 天地で自分らしく前向きに生活することで、自分を支えてくれた皆さんに恩返ししたいと感じています。

就 職活動をするときに思った以上にお金がかかるので、今回の支援がとても助かりました。これからは社会人として立派に成長していきたいと思います。

卒 園後はずっと目標にしていた消防士になるため公務員試験の勉強ができる専門学校へ進学します。一人暮らしは不安がたくさんありますが、目標に向かって頑張りたいと思います。今回の支援金を通じて自分には応援してくれる人がいるということを実感できました。

プ ロジェクトによって、金銭面以上に気持ちの面で安心して受験でき、合格することができました。大学進学後も、たくさんの方々に支えられていることを忘れず、勉強に励んでいきたいです。

※多くの利用者や登録団体の皆様からお声をいただいておりますが、紙面の都合により、一部のみの掲載となっております。

認定NPO法人
アンガージュマン・よこすか

制度の利用で広がる キャリアの選択肢

NPO法人アンガージュマン・よこすかは、横須賀市の適応指導教室に通う、不登校の子どもをもつ親御さんたちの互助グループが母体となって始まりました。

「アンガージュマン (engagement)」とはフランス語で社会参加のことを表わします。同じ悩みをもつ親御さんたちが学校に行けない子どもたちの将来を考えていくうち、そうした子が安心して集まることのできる場所を町の中につくろうということから、地元の人たちの協力も得て、上町商店街の空き店舗のスペースを借り上げました。

不登校の子どもたちに加えて、なかなか社会とつながることのできない、ひきこもりの大人たちも対象として、居場所づくりから就労支援まで手掛けるようになりました。

現在は居場所としてのフリースペース「あばうと」の運営と、1人ひとりの子どもにあった学びを提供する学習支援、ひきこもりの人への就職支援が活動の柱となっています。神奈川県教育委員会の教員派遣体験研修を受け入れるなど自治体とのつながりも強く、商店街と一緒にイベントの企画や運営を行うなど、地域と一緒にやってその活動を支えています。

巣立っていった子どもたちがふらっと訪れたり連絡をくれることもあります。

「昨日も中学のときここに通ってきていて、いま25歳になった子からLINEの連絡がきました。時々でも連絡があると安心しますね」(島田徳隆理事長)

安心して過ごせる場所を提供

いまアンガージュマンを訪れているのは子どもと大人



それぞれ10人ほどで、子どもは中学3年生と高校生、大人は30代が中心。横須賀市内から通う方が主ですが、なかには片道2時間かけて東京から通ってくる子もいます。フリースペースではギター教室を開いたり、ゲームをしたり、楽しんで過ごせるような取り組みをしています。

大学進学への道が拓ける

かながわつばさプロジェクトの活用は横須賀市生活支援課から勧められたのがきっかけで、2022年度、2023年度と、それぞれ3名が進学・就職に際して受験費用や就職準備費用の支援を受けました。

困っている人をサポートする奨学金制度などの支援制度の整備は進んでいますが、利用する側からすると、どんな制度があって、誰が対象となるのか、自分が該当するのかを個人で探すのは大変です。

島田さんは、「申し込んで結果的に対象とならなかったとしても、様々な相談に対応してきた蓄積がありそれぞれの事情にあった提案ができるので、困りごとがあるならまずは相談してみてもいい」と提案します。

ある子は、絵が得意で、家庭の事情から最初は高校を卒業して就職するつもりだと言っていました。しかし、島田さんは、支援制度の活用で経済的に進学が許されるのであれば、たとえば美術大学に行けば画家にならなくても美術の先生のキャリアが拓けるのではないかと考えて進学を薦めました。

選択肢が増えたことから、本人もキャリアについていろいろ考えるようになり、最終的には絵は趣味として描きつづけることにして、法学部への進学を選択しました。

合格の報を受けたときには本人はもちろん、家族がたいへん喜んだそうです。

事情のある家庭ほど将来への不安は大きいものです。経済的な支援があることによって選択肢が増えることが将来への不安をやわらげる材料になると、島田さんは制度が積極的に活用されることを期待しています。



NPO法人
子どもと生活文化協会(CLCA)

社会への ファーストステップ の後押しに

90年の歴史をもつ寄宿生活塾「はじめ塾」の実践経験をもとに、生活体験合宿、食農体験、相談と体験を通じた若者の自立支援、学校に行けない子を対象とするオープンスクールなど、大人と子どもと一緒に学ぶ活動を通じて、青少年がたくましく生きる力を身につけるための活動を行なっているのが、NPO法人子どもと生活文化協会 (CLCA) です。

1992年に学校に週休5日制が導入されたことから、土日の子どもの受け皿づくりのために、前ははじめ塾長の和田重宏さんと塾にかかわっていた父母らが中心となり、NPOを設立。丹沢の古民家で毎月のように合宿を行ったり、ともに学び作業をする市民農園を運営したり、学校と家庭とは別の居場所づくりを進めてきました。

そんななかで不登校やひきこもりの支援活動も手掛けるようになり、自治体から委託を受けて地域若者サポートステーション、神奈川県西部青少年サポート相談室など、就労や不登校・ひきこもりの相談窓口や支援窓口としての役割も果たしています。

共同生活で生きる力を身につける

はじめ塾では12～13人の子どもたちが一軒家で寄宿生活を送っています。年齢やバックボーンの違う子どもたちが寝食をともにし、協力して生活することで、人との関係性や生きる力を身につけていきます。CLCAが運営する農園での農作業や、共同生活の中で、子どもたちは、説明書通りにやっても実際にはうまくいか



ないことを数多く体験すると言います。「実体験を通じ、教科書には書かれていないが社会に出ると必要になる“隙間のようなコツ”を自分の感覚で覚えていく、そういう力を育てていくことが大切」と和田さんは話します。

CLCAがかながわつばさプロジェクトを活用し始めたのは2022年度からですが、2023年度は10人以上が進学や就職など、新しい生活のスタートにあたって支援を受けました。

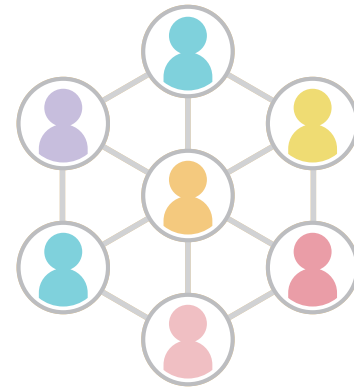
高校では不登校だったというある子どもは、CLCAの活動にかかわるなかで農業を本格的に学びたいと一念発起し、1年間の猛勉強で農業大学への進学を決めました。またある子どもは寄宿生活中に始めたアルバイト先の経営者に気に入られ、高校卒業後は社員として働き続けることになりました。2人は、それぞれ一人暮らしを始めるための費用の支援を受けています。

和田さんは、寄宿生活を卒業し、1人で歩いていくためのファーストステップを踏み手前での支援の重要性を感じています。「一人暮らしや何かを始めようとするときどうしてもお金がかかってしまう。そこをサポートしてくれるのは大変ありがたいことですし、子どもたちにとっては、助けてくれる人がいるという学びのチャンスになる。自分たちも求められた時には誰かを助けようという気持ちにつながっていくと思います。こうした制度があることをもっと知ってほしいですね」と、プロジェクトの意義を強調します。経済的なサポートはもちろん、支えてくれる人の存在や、支えてもらった実感が得られることの意義が大きいといいます。また、利用者からは、「支援対象が幅広いところも利用しやすく助かった」という声が寄せられているそうです。

「支援を受け入れてもらうには、支援する側とされる側の信頼関係が必要です。支えてもらえたという経験が、人とのつながりやかかわりへの信頼感につながることが大きいですし、有難いと感じています」(和田さん)

かながわ子ども・若者未来応援 ネットワーク会議での検討

ネットワーク会議では、生活困窮者支援体制を構築するためのプラットフォームとして、NPO等の登録団体、有識者、自立相談支援機関及び行政が参加して、困難に向き合う子ども・若者たちの現状や各団体による支援状況、かながわつばさプロジェクトにおける支援のあり方などを議論しています。



プロジェクトへの参画登録を希望する 支援団体の皆様へ

(参画方法及び留意事項)

- プロジェクトへの参画登録を希望する支援団体の方は、中核団体までお問合せください。
(巻末の問合せ先参照)
- 参画にあたっては、かながわ子ども・若者未来応援ネットワーク会議への参加、支援金の利用にあたっての支援対象者とのやりとり、必要に応じた伴走支援を行っていただきます。
- かながわつばさプロジェクトによる支援金は、日ごろ、団体が支援している子ども・若者たちへの「社会への巣立ち」に係る取組みに充てていただくことを想定しています。
- 支援対象者の選定や案内、申請から実績報告に係る書類整備や支援対象者への証憑書類の保管・提出等の助言などにご対応いただきます。
- 支援金の対象となる費用は、中核団体が定める募集要項に記載の期間に支出した費用に限ります。期間外に支出した費用は対象外となりますので、申請にあたってはご注意ください。
- 対象となる費用は、①大学・専門学校等の受験費用、②住居設定に要する初期費用、③就職活動に要する費用となります。詳細は、登録後に提供するFAQをご参照いただくとともに、疑問点等が生じた場合には速やかに中核団体にお問合せください。
- プロジェクトの財源に限りがあるため、支援金の交付決定額が各登録団体の申請額を下回る場合があります。その場合には、各団体において、対象者数や支援金額を調整いただきますことを予めご了承ください。
また、交付決定後に支援金に残額が生じることが分かった場合には、他の支援対象者に有効活用させていただくため、判明した時点で速やかに中核団体にご連絡いただきますようお願いします。

寄附実績

「かながわつばさプロジェクト」への寄附は、
皆様からの温かいご支援により、

総額779万9千円に達しました。

(令和4年度から令和5年12月末時点の累計寄附額)

県内企業様や個人の皆様からのご寄附をかながわつばさプロジェクトに充当させて頂きました。プロジェクトの趣旨にご賛同いただき、困難に向き合う子ども・若者たちによる「社会への巣立ち」へのチャレンジを応援していただきましたことに関係者一同、深く御礼申し上げます。

寄附のお願い



子ども・若者たちの“社会への巣立ち”を応援！

「かながわつばさプロジェクト」では、引き続き、皆様からのご寄附・ご協賛をお願いしております。皆様からのご支援により、多くの子ども・若者たちが自らの夢や希望を叶え、社会に巣立っています。「誰一人取り残さない」というSDGsの理念のもと、社会課題である「貧困の連鎖」を遮断し、持続可能な社会を実現するため、子ども・若者たちの未来を応援する「かながわつばさプロジェクト」にご支援いただきますようお願いいたします。

ご寄附にあたっては、ホームページ(右記二次元コード参照)のお申込みフォームからお申込みいただくか、次の宛先にお問合せくださいますようお願いいたします。



【令和5年度中核団体】

認定NPO法人神奈川子ども未来ファンド

電話 045-212-5825

電子メール info@kodomofund.com

※神奈川子ども未来ファンドへの寄附・協賛金は税制優遇の対象となります。

詳しくは、同団体のホームページに掲載しております「寄附金の税額控除について」をご覧ください。



神奈川県

支援につながるサイト、できました

さぼなびかながわ

生活、仕事、育児、人間関係や社会とのつながりなど
 本当は誰かに相談したい……
 その思い、心にしまわず、相談してください
 たくさんの「サポート」と一緒に、一歩前へ。




神奈川県生活困りごとサポートサイト

OPEN!

神奈川県にはどんな支援制度があるの？

支援の窓口ってどこにあるの？

地域の支援団体を知りたい！

悩みを聞いてくれる所を探している

県内の様々な支援窓口、制度情報が満載
 ひとりで悩まず、アクセスして下さい

さぼなび かながわ



問合せ先：神奈川県福祉子どもみらい局福祉部生活支援課 電話 045-285-0647

ともに生きる



こまったら、ひとりで悩まず、相談してください。

「さぼなびかながわ」掲載相談窓口（例）

かながわ子ども・若者総合相談LINE

子ども・若者のさまざまな悩みへの相談窓口

LINE ID: @kana-kowaka
福祉子どもみらい局青少年課



かながわヤングケアラー等相談LINE

家族などのケア（介護、看病、お世話等）に関する
家庭や学校、進路の悩みなどを相談

LINE ID: @kana-youngcarer
福祉子どもみらい局高齢福祉課



かながわ子ども家庭110番相談LINE

子育ての不安、親子関係や児童虐待等の相談窓口

LINE ID: @kana_kodomo110
福祉子どもみらい局子ども家庭課



かながわひとり親家庭相談LINE

仕事や子育てなど、ひとり親家庭の方向けの相談窓口

LINE ID: @kana_hitorioya
福祉子どもみらい局子ども家庭課



かながわDV相談LINE

DV・デートDVに悩む女性のための相談窓口

LINE ID: @kanagawa-dv
福祉子どもみらい局共生推進本部室



LINE相談「いのちのほっとライン@かながわ」

こころの健康に関する悩みの相談窓口

LINE ID: @inochi2020
健康医療局がん・疾病対策課



24時間子どもSOSダイヤル

いじめに関する問題などさまざまな悩みの相談窓口

☎0120-0-78310 ☎0466-81-8111
県立総合教育センター



女性のためのキャリアカウンセリング

女性の就職活動を支援（ウェブ相談・来所相談は要予約）

☎045-290-0107（月～木）
かながわ女性キャリアカウンセリング相談室



かながわ女性の不安・困りごと相談室

不安や生活上の課題を抱える県内女性を支援する相談窓口

☎0467-46-2110
インクルージョンネットかながわ（受託）



多言語支援センターかながわ

10の言語とやさしいにほんごでの情報支援

☎045-316-2770
多言語支援センターかながわ



どこに相談したらいいかわからない時は…

お住まいの地域の相談窓口にお問い合わせください

生活困窮者自立相談支援機関

生活困窮者自立支援法に基づき、市や県（町村所管）に専門の相談窓口を設け、生活に関わる様々な困りごとの相談に応じています。





上記のほかにも、県内には、相談窓口や支援団体などが数多くあります。
 支援制度や相談窓口、支援団体をお探しの方は、
 「さぼなびかながわ」で検索してみてください。

さぼなび かながわ

かながわつばさプロジェクトへの参画登録や寄附の申込み等について

認定NPO法人神奈川子ども未来ファンド

電話 045-212-5825

電子メール info@kodomofund.com

県の生活困窮者支援の取組みについて

神奈川県 福祉子どもみらい局 福祉部 生活援護課（生活困窮者対策グループ）

電話 045-285-0190